

令和元年度第1回三次市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和元年7月19日(金)
開会：14時 閉会：15時30分
- 2 会 場 三次市役所本館6階 603会議室
- 3 出席構成員
市 長 福 岡 誠 志
教 育 長 松 村 智 由
教育委員 小根森 直 子
教育委員 藤 原 博 己
教育委員 深 水 顕 真
教育委員 井 岡 直 美
- 4 出席職員等
(教育委員会)
教 育 次 長 長 田 瑞 昭
事務局付課長 赤 木 実
事務局付課長 広 瀬 恭 子
学校教育課長 大 原 哲 也
文化と学びの課長 古 矢 俊 彦
(事務局)
総務企画部長 中 村 好 宏
秘書広報課長 笹 岡 潔 史
秘書広報課主事 畝 岡 あ き
(傍 聴 者) 1人
- 5 協議事項
三次市教育大綱の改訂について

秘書広報課長 開会に先立ち、会議の公開についてお諮りさせていただく。総合教育会議は原則として公開により開催する。まだ傍聴者の方はいらっしゃるが、報道関係者を除き、傍聴者の方が写真撮影等をされる場合、あらかじめ許可が必要となっている。傍聴者の方が来られた場合、写真等の撮影を許可してよろしいか。

構成員一同 一異議なし

秘書広報課長 それでは、ただ今から、令和元年度第1回三次市総合教育会議を開会する。構成員は、市長、教育長、教育委員となっており、今日は全構成員の出席によって、開催させていただく。それでは、開会にあたり、福岡市長からごあいさつを申し上げます。

福岡市長 皆様方には平素から、三次の教育、行政に対して、多大なるご尽力をいただいていることに対して、感謝を申し上げます。今日の第1回三次市総合教育会議は、私が就任させていただき初めての開催であり、今後の三次市の将来の教育についての方向性や、皆様方から色々ご意見をいただきたいということでおいでいただいた。それぞれ忌憚のないご意見をお願いしたいと思う。将来の三次市の教育、行政の振興に引き続きご尽力いただくことを心からお願い申し上げます、あいさつに代えさせていただきたい。

秘書広報課長 続いて、次第の「2 協議事項」に移らせていただく。ここからの進行については、この会議の議長である、福岡市長にお願いしたいと思う。

福岡市長 それでは、まず三次市教育大綱の改正について、私からある程度の方針をお伝えさせていただきたい。

教育大綱については、皆様方でご議論いただき、今年の3月に策定いただいた、非常に尊い大綱であると認識させていただいている。私自身の教育に対する思いをどのように取り入れて、今後の三次の教育の振興に当たらせていただくかを、今までの大綱プラスアルファでどのようなことをやりたいかという点について、私から話をさせていただきたいと思う。

ご承知のとおり、今、教育行政の中にもICT教育といったテクノロジーを活用した教育が、色々なところで出てきており、202

0年から始まる新学習指導要領の中には、ICT教育といった項目についても、挙がっていると認識している。先般、新聞報道等でも色々と教育についての記事が載っており、私自身も三次市の義務教育の中に、ICTを盛り込んだ学校教育が必要ではないかと認識している。自分自身の政策理念の中にも、ICTを活用した教育の振興ということを入れさせていただいている。

その背景として、お手元に新聞記事が配布されていると思うが、文部科学省がICT教育について2025年度までの工程を示したという内容で、現在ICT教育について、ソフト整備、ハード整備が遅れをとっているといった状況があるようだ。2025年をめざして、児童・生徒が1人1台パソコンやタブレットを使用出来る環境を今後整備していくという内容だが、私自身もICTを活用して、しっかりと子どもたちに教育をしていくべきだと思う。このような分野について、子どもたちにもちゃんとした認識をもってもらい、ICTを活用した授業や、使い方を身につけてもらいたいという気持ちがある。

昨日のことだが、広島県知事へ要望活動をさせていただき、学校におけるICTの活用について、要望させていただいた。広島県教育委員会には、後日改めて要望することになっているが、子どもたちの飛躍的な発見創造と新たな社会を引率する能力、読解力、計算力や数学的思考力等の基礎的な学力が求められる中で、タブレットやパソコンを活用して、そのような部分を身につけていくことが求められていると思う。

その中で、なぜ三次でICT教育を実践していこうとしたかという点、1つは、今、学校施設のICT環境として、無線LANの整備率が三次市の小中学校は非常に高いという背景がある。ほぼ100%近く、小中学校に無線LANの整備がされている。ちなみに、全国平均が34.5%の整備率で、広島県においては、普通教室の無線LAN整備率が14.8%という水準である。こういった環境をみると、このような環境があるからこそ、早期に導入が出来るという状況であり、他市に先駆けて、子どもたちにICT教育を推進していくということが、三次市の教育にとっても重要なのではないと思う。このICTについては、今後の地域社会の中で、まず無くなることはない分野であるので、そのような観点から、早くに導入を進めていきたいと考えている。また、新聞記事にもあるように、文部科学省も2025年に1人1台タブレット又はパソコンを利

用出来るような環境整備をしていくということだが、文部科学省へも来年度の要望活動として、三次市も積極的にそのような分野を取り入れて、学校教育を推進していくという要望活動をしていきたいと考えている。

I C Tを活用することによって、生徒や子どもたちの授業への活用という点もあるが、一方で、学校教職員の皆様の働き方改革へも結び付くと思っている。今しきりに、国では働き方改革ということで様々な分野で言われているが、学校教職員の先生方の今の実態を見てみると、自分の時間を割いて、学校教育に携わっていただいている状態だと伺っている。I C Tを活用することによって、先生方の働く環境の改善ができないかという点でも、期待はされているところであり、児童、生徒、並びに学校の先生の環境改善に向けて、有効な手段ではないかと感じている。

もう1点は、I C Tの活用に加え、学校図書の充実ということで、学校図書館のリニューアルプロジェクトを実践していきたいと考えている。子どもたちの成長過程で、本に慣れ親しむということは、非常に重要なことであると認識させていただいている。では、どうやって本に慣れ親しむかというきっかけ作りとして、学校図書館リニューアルを行っていきたいと思っている。今の学校図書室というのは、使っている子どもは使っていると思うが、本棚に本が並べられていて、図書室の真ん中に机と椅子が置いてあって、いつでも本が読めるという環境ではあると思うが、もっと図書室を子どもたちの身近な部屋として使ってもらえるようなリニューアルをイメージしている。実際に、三次高校では学校図書リニューアル事業が行われている。そのような三次高校の事例もあり、子どもたちに図書室をもっと身近に、本をもっと身近に感じてもらうために、学校図書リニューアル事業ができないかということで、私自身の政策理念の中にも、そういった項目を挙げている。

今日は教育大綱についてということだが、主に私からお伝えさせていただきたかったのは、今の2点である。そのような点で、皆様方の率直な意見を伺わせていただきたいというのが、本日の第1回総合教育会議の趣旨であるので、忌憚のないご意見をお願いしたいと思う。

松村教育長 まず、福岡市長から何点か総括的なところでお話いただいた。それぞれの委員の皆様から、何か今の話を受けてご意見があるか

ということで、お話をしていただければと思う。

まず、福岡市長からもあったとおり、私達も一緒に考えさせていたきたいと思う。三次市教育大綱に関わって、今日は思いを聞かせていただきながら、今後どのようにしていくかということで、市長からICT教育、学校図書館のリニューアルというところを、大きな論点として挙げていただいた。

これまでも教育委員会は、教育委員の皆様とともに、学校教育の在り方について考えさせていただいてきた。その中でICT教育については、今日も市長からご紹介していただいたとおり、本市のICTの環境は、全国に比べてかなり高いところに位置している。例えばLAN整備の話が今日も出たが、三次市は92.8%と県の数値と比較しても、随分良い環境を整えていただいている。また、国も言っているが、超高速インターネットの接続ということで言うと、先ほどもご紹介いただいた通り、三次市は学校でもそれが使えるような環境になっており、100%ということだった。ちなみに、県が67.5%という状況で、それと比較しても、全国、県よりもさらに良い環境で、これ以上はないという状況である。そして、現在でも既に始まっているが、ICT教育、特にパソコンを活用して円滑な学びの充実をさせていくことが2020年新指導要領にも明記されており、1つの目標として、2025年を目途に1人1台ということをも文部科学省は言っている。今、三次市がだいたい5人に1台の割合で配置ができています。ノート型パソコン、あるいは中学校のタブレットを、今入れていただいているが、これを定期的に交換することも考え、そのような点も視野に入れながら、ぜひ取り組んでいきたい。

一方では、ICTをしっかりと活用した授業をする教員、さらにそれを活用させるための教育内容を、しっかりと取り組んでいかないといけないと思っている。いただいた話は、これまでも取り組んできたところであり、さらにそれを深めていきたい。

働き方改革という点でもお話しいただいた。例えば、広島県教育委員会では、パソコンを立ち上げた時に入校、パソコンを閉じた時に退校というように、各時点での入退校の記録を取り、教員の在校時間を測定するという形をとっている。現在、三次市では入校退校を記録するソフトを活用している。入校のボタンをクリックすれば、入校時刻が打刻され、退校のボタンをクリックすれば退校時刻が打刻されるようになっている。これも、いわゆる客観的な測定の仕方

であるといわれている。また、三次市では授業の中などで、インターネットを利用してデジタル教材や問題データベースなどを活用できるようにしている。それらをしっかりと活用することで授業の改善にもつながってくると思う。子どもたちと向き合う時間をしっかりと持っていただき、学力を高めていくことへつなげていって欲しい。

また、図書館のリニューアルだが、現在予算をいただき、特色ある学校づくりに取り組んでいる。これは、子どもたちに対して、学校がどのような教育内容を提供していくことが出来るか、特色を持った取組が出来るかということである。例えば、君田小学校のように、図書館の整備にあてることによって、子どもたちが図書室を好きになり、また、本を手にとって読んでみようという気分が高まっているという報告も聞いている。先程ご紹介いただいた三次高等学校の図書館も、平川教育長がご覧になり、さらに高めていこうということで力を入れて、いろんな形で図書館のリフォームをされた。この時に、三次市内の先生方もその場に参加させていただき、図書館のリフォームの仕方やリニューアルの仕方を見させていただいたので、それを各学校でも現在がんばってやっっていこうとしている。したがって、図書館リニューアルはこれまで培った図書館教育がさらに高まることへつなげていくことが出来ると思うので、私も素晴らしいことだと思っている。

そういった意味で、教育大綱の中にさらにそのようなところを加えていくことは、これまでも基本としてやってきたことなので、しっかりとそれを大きく明記しながらやっただけならば、私もありがたいと思う。

なお、最後になるが、「三次市子どもの未来応援宣言」は三次市教育大綱の一番大きな部分に関わってきているものである。総合計画ももちろん、その計画の中で「三次市子どもの未来応援宣言」が関わっており、子どもたちの未来のことも含めて、しっかりと取組をしていくと考えているので、それも併せて力をお貸しいただければと思う。

小根森委員　市長はいつも朝早くから見守りをされ、小さいお子さんもいらっしゃるということで、教育には大変理解も深く、熱い思いも持っておられると思う。

今日は、ICTと図書館ということで、お話しいただいた。IC

Tは、今、三次市がそんなに進んでいるのかとお聞きしてびっくりした。本当に素晴らしい。授業を見ても、最初は電子黒板やタブレットをなかなか先生が使いこなせていなかったが、だんだんと授業の中で自然にタブレットを使う先生や、普通に電子黒板を使う先生も育っているの、上手く進んでいくのではないかと思っている。ただ、大事なのは機械化と自然体験のバランスで、機械を使いこなす便利さを取り入れる中で、自然としっかり触れ合っていく体験学習、市から補助をいただいている体験活動などもぜひ続けて、少し機械から離れて、自分の力、人間としての力で出来る体験をしっかりさせてやりたいと思う。

そして学校図書館の件だが、三次高校のリニューアルは私も見せていただき、そこで旗を振ってくださった赤木かん子さんの話を聞く機会も得た。リニューアルで何が一番大事かということで、赤木かん子さんがおっしゃったのは、躍動する図書館、つまり、子どもはどのように変わっているかということである。昔の子どもと今の子どもとは、本質的に全然違う。それに合わせて、中身も違うべきではないかということである。三次高校でも、古い本を「もつたいない。」と校長先生が涙ながらに捨てられたと思うのだが、古い百科事典や全集などをかなり捨てられた。今の子どもたちは、そのようなものはあまり読まない。子どもたちの流行をしっかりと捉えてリニューアルをしていきたいと感じる。そして、子どもたちを自由にそこで過ごさせることもだが、そこで大人が子どもたちにわかるように読み聞かせをすることも、すごく大事だと思う。本当の本の楽しさを教えるためには、読み聞かせするということはすごく大事なことなので、そこにも力を入れていきたいと思う。そのために、司書、司書が無理ならばボランティアの方でも、1人が図書館にずっといてくださるように、どうにかしたいと思う。

藤原委員 小根森委員もおっしゃったが、市長はお子さんをお持ちということで、親の立場として、そういった教育の見方もしていただけたらと思う。

先程市長からお話があった、ICTと学校図書について、まずICTについては、これからますますの拡充ということで、今回も情報通信技術の活用として、三次市予算を組まれている。そこも含めて、学校現場とつながるということも確実なので、上手に使っていければと思う。自らは授業参観もあまり行っていないが、学校訪問

をしたときに、大分進んできているとは思いますが、教える側の先生の技術や、教え方、どのようにやれば子どもたちが目を向けてくれるか、興味をもって理解をしてくれるかというところを、まだまだやっついていかないといけないと思う。

図書館は、ICTのこともあるが、自分はどちらかというところデジタル派よりアナログ派なので、スマホも持っているが、まだガラケーも持っているということで、その辺では遅れていると思う。今の若い子を見れば、スマホで新しい情報を頭に入れている。その辺は、やはり幼少のころから小学校、中学校の頃に取り組んでいくことが大事だと思うので、力を入れていただければと思う。

図書館については、自分たちが小さい頃は、表彰というか、本を何冊以上読んだら表彰、というのがあった。「何の本を読みました」ということでラベルを貼って、10冊から11冊で色が変わるというのがあって、読みもしないのに名前を書いて貼ったりなんかもしていた。その中で、読んだ本というのは思い出として長く心の中に入っているし、そういう子どもたちが集まってくれればいいなと思う。図書館が、本を読む場所だけではなく、そこで先生と触れ合うとか、子ども同士がいろんな形で触れ合うとか、その中で「こんな本があるよ。」とか、本につながるような取組というか、出会いができればと思う。確かに本を読む、ということが一番だが、ただただ本を増冊するのではなく、そのような集える場所として、図書室というものを充実させていければと思う。私が一番大事に思うのは、子どもたちに本物を見せるということである。三次市の場合は市民ホールを活用して、いろんな音楽や演劇などを企画し、見せている。ICTを上手に活用すれば三次の端から端まで、各地の良いところ、私は三良坂だが、三良坂の良いところなどいろんな全体が、三次の中を全部見渡せると思う。その辺を子どもたちに、現場に行けるのが一番いいが、上手な形で、学校でも見られて、体験ということもできて、つながっていけばいいと思っている。

深水委員　　今、ICTと図書館リニューアルの2つの点でお話いただいた。特にICTに関しては、すでにお二方それぞれご意見いただいたと思うが、非常に大切なテーマであると同時に、ある意味、底なし沼のように深いところがあると思う。かつて、2000年前後だが、富山県の山田村というところで、各世帯に1個ずつMacのPCを配り、ISDNで全部つないだという日本初の試みがあった。

そこに視察に行かせていただいたが、担当の課長が、全部にコンピューターを置いた次の瞬間から、すぐ古くなったと言っていた。どんどん機械が新しくなる、更新されていく、そういう意味では、整備と機械のリニューアルのスピードがすごく早い。経済的、財政的な意味ではある意味底なし沼というか、どんどん次がやってくるというところがあると思う。そういう意味では、新聞記事にも書いてある通り、民間の活用と、私物のスマートフォンの活用というところが出てくるが、非常に面白い視点だと思う。かつてアップル社が積極的に大学教育へコンピューターを提供した時代があった。それはアップル社にしてみれば、大学時代に使っておいてくれれば、大人になって自分で買ってくれるだろうということだろうが、そういった民間業者側の思いもあると思うので、上手くそのようなところを使いながら、単に公金の部分だけではなく、民間の力も上手く使いながら、機器整備していただければと思う。

もう1つ、図書館のリニューアルだが、今は、お二方それぞれ、市長もだと思うが、本当にリアルな図書館の整備というイメージがあると思う。ある意味ICTをコアにすることも可能なのではないかと思う。ご存じのように、例えば、アマゾンのKindleや、その他いわゆる電子読書端末等がある。上手くそのようなところを活用していけば、バーチャルな図書館整備というのも可能ではないかと思う。そうすれば、学校の数だけ本をそろえなくても、権利さえあれば読むことが出来るというところがある。さらに、そうすれば読書データというのも簡単に管理でき、今言われたように、自分が何冊読んだのか、誰がこの本を読んだのか、ということをもっと把握出来る。さらに、三次市内で同じ本を読んだ者同士が、それを批評しあうというのも可能になってくるのではないかと思う。そういう意味では、確かに図書室に行って、例えば図鑑を広げて、例えば宇宙の本を見て、というのも非常に楽しいのだが、それも大切なのだが、一方では、せっかくICTという点で1人1台タブレットということをめざすのであれば、そこに図書館が繋がればもっと広がると思う。

井岡委員　ほとんど2点については言い尽くされたが、私の思いを付け加えさせてもらえば、ICTについては、学校現場を経験した者からすると、三次市は確かに恵まれていたと思う。その度に課題になってくるのが、藤原委員もおっしゃられたが、職員の方が追い

付かない。実際使いこなせる者が教育現場に何%いるのか。使いこなせるだけでは教育にならないので、子どもたちにどのように活用させるか、どう活用したら効果的に教材として使えるか、というところである。そこをもっと学校で研修していかなければいけないというのが、正直な感想である。併せて、設備は本当に良くしていただいているので、現場でもっとそれに見合うようなことをしていかなければいけないと思う。本当に昔のことだが、パソコンが学校に入ってきたときに、私はアナログ人間なので、必死でパソコンに向かって勉強した。昔のガリ版の時代から、そういったところは子どもの方がずっと上手いので、活用する力を上手く培っていかなければいけないと思う。教育現場での課題だと思う。

それから、図書館のことだが、先程申し上げたように、私はやはりアナログ人間なので、電子化されても、読書というものは紙から伝わってくるものもたくさんあると思う。どうしても、データ化されても「本は本」というようにはなってきているが、子どもたちは本に触れれば、本の楽しさというものがわかってくるとは思う。しかし、今の子どもたちはそのような環境がない。忙しいというのもあると思うが、忙しいのと読書量は関係ないのかもしれない。実際、「今の時間は読書の時間」というように、読書タイムというのを設定されていると思うが、それがあってもなかなか。あるがゆえに、その時間だけは、1日1回は本に接するという子どもたちもいると思う。それは本当に気の遠くなるような取組だが、ずっとずっと続けていって、子どもたちに、なかなか家庭では本に接することができない環境の子どもたちも含めて、本当に読書は環境だと思うので、浸透させていくという根気強さがあると思う。

併せて、小根森委員からもあったように、ボランティアも三次市では盛んに行っている。ボランティアの方々が自分達で選書して来て読んでくださるということも聞いており、それはそれでありがたいことで、良いことだと思う。学校の中で色々工夫すれば、教職員が子どもたちに、ボランティアの方が来られないときは、自分が読んで聞かせるとか、働き方改革とも関係があるとは思いますが、自分の給食を食べる時間を1分減らしてやるということもしていたが、色々な方法があると思う。とにかく、本と子どもの距離を縮めて、子どもたちがいつでも本を手にとれる、読める、聞けるという環境が必要だと思う。図書館のリニューアルもどんどんしていただいているが、蔵書も限られているし、莫大な予算もかかってくる

かと思う。そういった意味でも、深水委員の言われたような、新しいことも取り入れて、少ない予算の中で蔵書を増やしていくことも必要かと感じた。

福岡市長 それぞれ大変貴重なご意見、また、課題についてご指摘いただき、ありがたく思う。

私自身、ICTといっても、最終的に大切なのは人と人、心と心という部分だと思う。ICTやテクノロジーが目覚ましく発展しても、最終的に子どもたちに育んでほしいのは、自然の中でしっかり遊んで体力をつけていくことや、小根森委員からご指摘のあった、体験をもっと充実させるということも重要なのではないかと思う。その基本的な部分については、ぶれてはいけないという認識である。そういう意味では、ICTを手段として活用していくということでご理解いただきたいと思うし、ICTがすべてではないということも逆に言えようかと思う。

その中で、井岡委員からも、学校現場の先生の状況の話もいただいたが、教職員の先生方にも、初めの内はどうしてもご負担をかけるようにはなるかと推察する。我々もそうだったが、ガラケーからスマートフォンに変わったり、パソコンを使って仕事をしたり、切り口の部分で非常に苦慮した記憶がある。ある意味、こういった部分では、少し乱暴かもしれないが「習うより慣れろ」といった側面もある。先生方にもご負担をかけることにはなるかもしれないが、行く先々は新たな可能性も見いだせる部分もある。引き続き、現場をずっと見られてきた井岡委員のアドバイス等もいただきながら、どのような仕組みで、どのような取組をしていけばよいのかということ、ご助言いただければと思っている。

学校図書のリニューアルについては、本当に様々な視点でご意見をいただき、バーチャル図書館とか、Kindleというソフトを活用するとか、あるいは司書充実ということをご指摘いただいた。私自身も、本と子どもたちの距離を縮めるということは絶対であったが、どうやって子どもたちに読む力を持ってもらうかについては、色々な視点から、色々な手段で、調査研究をする必要があると思う。タブレットで本を読むことも、一つは大事なところではあるが、一方で、アナログで生の本に触わりながら本を読むことも、両方重要なことではないかと思う。また、教科書の電子化も実際に進んでいるという面もあり、そこについては引き続き教育現場の動向を注視

しながら、「これが良い」という決め方ではなく、三次ならではの本に触れ合う機会というものを作り上げていくことが大事ではないかと感じている。君田中学校では、半世紀近く学校の1つの大きな特徴として本に慣れ親しむ親子読書などを通じ、君田の子どもたちは本が身近になってきている。先般、長年の取組が評価され、文部科学大臣表彰も受賞されている。この間、校長先生に訪問していただき、昔からずっと取り組まれている、特色のある本に親しむやり方というのを学ばせていただいた。これが100%ということは、なかなか見出せないのではないかという気持ちもあるが、本日いただいた皆様からのご意見を参考にしながら、本と子どもたちの距離を縮める図書館になるような、あるいは、子どもたちが慣れ親しむような空間となるような、図書館づくりというのを念頭に置かせていただきたいと考えている。

また、私自身の大きな政策として、スマートシティ構想ということ为先般の6月議会で調査費を計上させていただき、議会でも承認していただいた。このスマートシティ構想というのは、ICTやAI（人工知能）やIoTを活用することによって、市民の皆様が、もっと便利でもっと幸せな市民サービスが享受出来るように、そのような分野を活用し、市民サービスの向上に努めていきたいと思っている。また、市役所の中でも、働き方改革へもつながってくるが、ICTを使うことによって、業務改善やそれによる働き方改革を実践していきたいと思っている。スマートシティ構想の分野については、教育だけではなく、防災や産業、あるいは庁舎内の業務や、色々な分野で応用が出来るので、今年1年間、どういった分野でICTを組み込んで便利な地域社会にしていくことが出来るかということ調査して、今後具体的な事業として展開していきたいと考えている。その1つの柱として、学校のICT化を入れさせていただきたいと考えている。

皆様のご意見をふまえて、私の主観でお話しさせていただいたが、教育長からもお願いしたい。

松村教育長 先程、4名の教育委員の皆様からの考えを聞かせていただいた。図書館の司書の話があったが、司書というと、本の読み聞かせをすることもあるが、司書に今学校が一番求めているのは、本の整理の仕方や、図書紹介をどのようにしていくのか、あるいは図書室のPOP作り、手に取って読みたい本を紹介していくやり方など、そ

ういったところを含め、司書がいれば、子どもたちが本を好きになっていくだろうと考えている。そうすると、例えば複数の学校を1人の司書が回り、ノウハウを教えてもらったり、子どもたちへ紹介する機会を持ってもらったり、読み聞かせについては、各地域へ読み聞かせボランティアの方もいてくださる。そのような方々としっかりと連携していくことも大事で、時にはそのような読み聞かせを出来る方々から、直接どのような読み方が楽しく聞けるかということを経験させてもらうことも必要だと思う。

ただ、県に聞いてみても、図書費に関わって特に予算を今出せるかと聞くと、無いということだった。したがって、図書館のリニューアル、あるいは本の冊数をそろえていくことを、三次も頑張っているが、直接的に効果を出すのに、予算がないということは知られていることである。

もう1点、ICTのことだが、冒頭、市長もこれから文部科学省へ行って、ということで話があったが、平成26年から平成29年の間、この4年間で国がICTの教育に対してどのくらい予算付けをして、それをいわゆる地方交付税で出してきたかということ、6,712億円という額である。現在も続いているとするならば、地方交付税であるので、直接これがICT用というように出てくるものではないが、上手くそういったものが活用出来るのであれば、しっかり使わせていただくことも重要だと考えている。いずれも言われたが、今新たにバーチャルでいろんなことが出来るのがICTの魅力であるし、また、実際に行けないところに行った感覚を持つということも素晴らしい点だと思う。一方で、自然体験ということも今日おっしゃっていただいたが、確かに自然とのふれあい、人と物とのふれあい、人と自然とのふれあいということも大切なことだと思う。いずれも、子どもたちの健全な成長のためには必要なことであり、また、新たな手段としての機器でもあるので、それを指導出来るような教員の育成も頑張りたいと思う。

ICTに関わる指導の仕方については、文部科学省のホームページにそういったページがあるが、三次市においては、ICTに関わってはICTの専門員を配置し、少しでも指導を一緒に担っていける方を求めて、今予算を多くしていただいている。ICTは、今日深水委員が底のない沼のようだとおっしゃったが、一旦入ると、どんどん新しくなっていくということで、少しでも使う機能、性能の良いものが必要なかもしれないが、いい方法があれば教

えていただきながら、子どもたちにとっても、学校現場にとっても、良いものにしたいと思う。

福岡市長 皆様の中からこれはというようなご意見があれば、再度伺いたいと思う。

深水委員 今回初めて総合教育会議参加された福岡市長に、3点ほどお話しさせていただきたいと思っていた。

1つは、この3年間ずっと教育委員会に関わらせていただき、特別支援学級という形で、勉強が苦手な子どもたちに、いかに勉強を伝えていくかということ非常に手厚くやっていることが、非常に伝わってきた。三次では本当にしっかりやっておられるなどと思うが、逆に特別支援という言葉を目にして考えると、勉強が苦手な子ではなく、勉強が得意な子に対して何ができているかということに少々疑問がある。

かつて、うちの娘が広島の高校に進んだ時にふと「広島の高校すごいよ。ここだったら勉強できてもいいんだ。」と言ったことがあった。つまり、今まで中学校でいかに出来るということを隠していたかということだ。広島の高校に出てみて、初めて出来ても誰も何も言わないと言ったというのが凄くショックだった。それだけ勉強が出来ることを、皆それぞれなるべく目立たないように、見つからないようにと、何か雰囲気があったのだと思う。

多分市長もご存じのように「M e n s a」という団体がある。IQが一定以上のレベルの団体だが、「M e n s a」の対象となるのは、全人口の2%と言われている。つまり2%というのが、ある意味出来る方へぶれている、出来る方に逸脱している。その人たちを、どう三次市としてサポートしていくのか、支援していくのかというのは、今まで見えてこないという気がする。「あの人たちは2%、数が少ないから放っておけばいい。」とか、「2%なら自分で出来るでしょ。」というのは、逆の特別支援の方向へ向かっている。それはひどい暴言になっているという気がする。「出来ないのを放っておけばいいや。」とか「あの人たちは勝手にやればいいんだ。」というのは当然言えないことであり、出来る方の2%に対してどういうサポートが出来るかというのは、ぜひ考えていただきたい。その意味ではICT等を上手く活用する中で、今の学校における、もっと広い視野で勉強出来る環境を何とかできないかという気がしてい

る。

2点目は、給食施設の問題であり、何年もこの委員会の中でも、この給食施設が話題となっている。ある意味、政策的な経費というよりも経常的というか、子どもたちが日常口にする食べ物なので、ある意味待ったなしの状況でなかろうかと思う。一部、例えば規模が大きくなることによって「給食に真心がこもっていない」というようなことがあると思う。しかし、別に10食作ろうが100食作ろうが、うちの母もたくさん作っていたが、たくさん作ったら真心がこもっていないかといえ、そんなことはないと思う。決して規模が大きくなったからといって、質が落ちるということはないと思う。逆に規模が大きくなることによって、出来る可能性はもっと広がっていく気がする。ホームページで見た程度だが、北海道の伊達市では、「だて歴史の杜食育センター」という、給食施設と一緒にキッチンスタジオを備え、さらに給食レストランを備えた施設がある。また災害時の炊き出しなども行う中で、規模が大きくなることによって、例えば、そういったキッチンスタジオで食育ということも出来るだろう、規模が大きくなることによって、例えば、給食レストランでみんながいつでも行って、試食出来る環境が出来るだろうというスケールメリットはあると思う。ぜひそれは、一刻も早い整備の方向で進めていただければと思う。

3点目は、もののけミュージアムを上手く活用することである。すでにキャッチコピーにもあるように、全国初、日本で初めての妖怪に関する博物館だと思う。妖怪という民族学的な分野では、今まで例えば遠野市が非常に有名で、柳田國男の「遠野物語」といった所が非常に有名である。しかし、それにとって代わるくらいのポテンシャルを持っているのではないかという気がする。このもののけミュージアムは。それで上手くそこを活用していただければ、日本民俗学のある意味、拠点になり得るという気がしている。ちなみに、今、日本の民族学会は2,300人くらい会員数がある。例えば、その人たちのセミナーや研究会の場所を提供することによって、学者さんが集まってくれる、例えば、夏休みに集まって夏と一緒に研究会をする中で、地元の小学校・中学校で講義をしてもらおうといった相互作用も期待出来るのではないかと思う。私は一番この部分に可能性があると思い、私事を申し上げるが、今年の9月に東京で日本宗教学会というのがあり、日本宗教学会の初日9月14日に私個人で発表することにしており、三次の試みについてということ

発表してこようと思う。そういった形で上手く宣伝すれば、人を引き付けるだけの可能性があると思っている。また、日本にとっての1つの価値のある建物になっていくと思う。ぜひ活用していただきたいと思う。

福岡市長 今深水委員から、3点の貴重なご意見をいただいた。いわゆる「Mensa」、IQが高い、人口の2%程度の方々というようなことであるが、ここをどうやって伸ばすかという取組、さらには学校給食の待ったなしの状況ではないかということだった。学校給食についても、早急に整備を進めていくことだ。

もう1つは、最後にあった、もののけミュージアムの活用、その活用の仕方と言っても、ただ単に集まる、ご来館いただくというのではなく、民俗学的見地から活用していき、民俗学の拠点というようなことをしていこうということだが、ここで具体的に「こうしていきます。」と私からは本日は控えさせていただきたいと思う。また、今後の参考にさせていただきたいと思う。貴重なご意見、ありがとうございます。

小根森委員 今考えていることを述べさせていただく。

三次市の小学校・中学校は今大変良い状態にあると思う。特に中学生は本当に熱心に、成績が伸びていない学校もあるにはあるが、勉強の様子を見ても凄く熱心で、静かな環境のなかで学習することが出来ていると思う。

ただ、私が学校訪問をしてちょっと気になるのが、時々小学校の低学年の子どもが少し落ち着かない学級がある。その校長先生に、「幼稚園・保育所との連携はどうか。」と聞くと、「就学するとき意見聞くことや、申し渡し等はしているけれども、日頃から連携をとっているという事はあまりない。」とおっしゃっていた。私はもう少し踏み込んだ連携をとってもらいたいと思っている。なかなか保育所と小学校の連携というのは、管轄の違いなどによって難しいが、特に今まで出た読書についてである。読書に関してカリキュラムを作る時に、幼稚園、一年生、二年生と、段階的にカリキュラムを作っていたらいい。いじめに関する教育も、幼稚園の時から、お母さんと一緒に、保護者も含めての教育をする、一年生にはこのように教える、二年生になったらこうするというのを、カリキュラムとして連携をとっていくことが大事なので

はないかと思っている。余分ではあるが、英語もできれば幼稚園の時に、お母さんが来られるのを待つ間にディズニーの英語版を流すとか、ちょっと給食の時に英語の歌を流すとか、本当に聞かせるだけでいいので、ずっと取り組んでいけばいいのではないかと思う。

もう1つは、深水委員からも出たが、施設に関して申し上げたい。給食施設に関して、何よりも衛生基準が満たせていないということがある。それは本当に大変なことではないかと思う。今、調理員の努力によって、それを補っているということなので、やはり衛生基準をきちんと満たす大きな給食施設を考えてほしいと思っている。食育もすごく大事で、これもやはり幼稚園から、ずっと積み重ねていきたいと思う。その時には、やはり保育所や幼稚園の保護者の方にもよくよく考えてもらいつつ、深水委員からも出たが、拠点になるような大型給食施設を作っていたらいいと感じている。

また、もののけミュージアムについて、深水委員からも出たが、私も民俗資料館を三次に作っていただきたいと思っている。というのも、私はアメリカの地方都市9つくらいにホームステイしており、どの町に行っても、町の自然、動植物、歴史、産業が分かるような小さい博物館があった。そこに行ったら、この町はこういう町なのかと分かるような所があった。三次も吉舎に資料館がある。私はよくそこに行くが、吉舎の美術館に併設されている資料館は、本当に昔の生活に入り込んで体験出来る。そういうことを、もののけの平太郎の時代と混ざり合うような体験が出来たら、楽しいのではないかと感じている。

福岡市長 小根森委員より3点のご意見があった。保・幼・小との連携、特に保育所から小学校にあがる段階で、小学生の低学年が落ちつかない学校があるということで、ある程度踏み込んだ連携を取り組むということだった。そして、衛生基準を満たす学校給食を早期に作ってほしい、さらに、歴史民俗資料館を市で作ってほしい、そうすることで、その地域にあるものや地域に根付いている歴史や文化を認識すると同時に、もののけとのコラボをというご意見をいただいた。それぞれ、先程の深水委員のご意見と共通するのは、学校給食の問題を早急に解決するということが共通のテーマとしてある。このことについても、今日のところはご意見として受け止めさせていただければと思う。

松村教育長 特に私が申し上げたいのは、今回、総合教育会議のなかで特に教育大綱をどうしていくのかというところで、6月議会の中でも一般質問でもあったので、どこをどう片付けたらいいか。また、意識した形にしていけばいいか考えている。それから、各委員からいただいたご意見、最後に深水委員と小根森委員のご意見、それぞれこれまでも教育委員会の中や、別の場所でも聞かせていただくことも多かったが、例えば、深水委員のおっしゃった、さらに深めていく教育への取組ということ言えば、今三次では問題データベースを各学校で活用できるようにしている。これは1月に行っている三次の学力テストとも連動しており、結果を受けての授業改善にも使えるものである。これは補習がメインというものではない。さらに自分が望むのであれば、発展的な問題にも挑戦してやっていけるという内容である。1つは、せつかくあるものをどのような目的を持って使っていくか、その使い方によっては、今おっしゃっていただいたことも当然できていくと思う。今日もお話があった「Mensa」の2%だが、それが例えばアインシュタインならば、一般でいう発達障害と見られる人でも、さらに自分の能力を伸ばし、素晴らしい力をこの世の中に周知してもらえることもある。専門員に巡り合って、「この子はこういう特性のある子どもさんですから、改善・克服するためにこうしたらいいですよ」というアドバイスをもらえたら、そこからが全てのスタートのようなもので、日々また新しい自分との出会い、発見というものがあると思う。そういう機会をしっかりと持てるよう、取り組めるところがあるかと思いながら話を聞かせていただいた。

また、小根森委員から海外で経験された地域では、独特の文化を示すものがあるという話を伺った。吉舎も三次とどれだけ違いがあるかよくわからないが、三次市には、三次市歴史民俗資料館というのがある。これが今老朽化しているが、こういった所にも素晴らしいもの、三次人形も含めて、いろんなものがある。そういったものを上手く展示して見ていただける施設へ、もう一度今後検討していくという方向性もあると今日聞かせていただいた。感想までになるが、私はそういう思いで聞かせていただいた。また教えてほしい。

福岡市長 第一回の総合教育会議の主旨に少し戻らせていただきたいと思うが、皆様のご意見をふまえて、今年3月に策定された教育大綱の

改訂をしていきたいという方向で今考えさせていただいている。今日2点について、私からはICT教育の充実と学校図書館のリニューアルについて提案をさせていただき、皆様方からは様々な前向きなご意見をいただいたと思っている。教育大綱について改訂という方向で、大きな方向性は、一致しているのかというように感じさせていただいた。そういった今の2点を付け加えるということで、教育大綱の改訂を進めさせていただいてもよろしいか。

構成員一同 一異議なし

福岡市長 全会一致の同意をいただいたので、本日の会議での意見をしっかりとふまえ検討した上で、次回の総合教育会議に改訂案を示せるよう、事務局で作業を進めさせていただきたいと思っている。事務局から、今後のスケジュールについて説明させていただきたいと思う。

秘書広報課長 今後のスケジュールだが、本日ご意見をいただいたものをふまえ、8月下旬にいわゆるたたき台というような改訂案を会議でお示しをさせていただければと思っている。その後、ご協議していただく中で、9月から10月にかけては議会への説明、併せて改訂素案ができたならパブリックコメント等もふまえて手続きを進めさせていただきたいと思っている。10月以降12月にかけて、議会の方へ再度説明をさせていただき、最終的に現行の教育大綱を改訂していきたいと思っている。

福岡市長 今、事務局からスケジュールについての説明があったが、そういった流れで、議会あるいはパブリックコメント、教育委員会議を通して、改訂に向けた準備を進めさせていただきたいと思う。

皆様方でその他ご意見が特にならなければ、終わらせていただきたいと思う。

いかがか。

それでは、最後に教育長から一言お願いしたいと思う。

松村教育長 今日、話を聞く中で、皆様も思われたと思うが、私達は、やっていることが子どもたちのためになるかどうか、そして、それによって子どもが得をしたかどうかということ、いつも意識しながらや

っている。これからもその姿勢は変わらないし、今日も教育委員の皆様方から、いろんご意見を聞かせていただいたが、ぜひこういった声を直接今後の総合教育会議において、市長へ伝えていただきたいと思う。市長の生の声を聞かせていただき、私達も一緒に協議し、意見交換が出来ていければと思う。第一回目の会議ということではあるが、先程の事務局の説明にもあったが、これから教育大綱を含め検討をしていくことになる。またご意見をいただくことになるので、私からもよろしくお願ひ申し上げて、今日の会を終わらせていただきたいと思う。

秘書広報課長 次回の会議については、皆様の日程を調整させていただき、早めにご連絡させていただくので、よろしくお願ひしたい。

以上をもって、令和元年度第1回三次市総合教育会議を終了する。